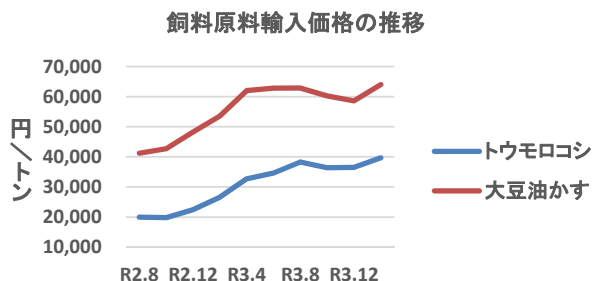


**新** 代償性発育等を利用した肥育豚における飼料費削減技術の開発(R5～R7)

背景・目的

近年の配合飼料価格の上昇

→飼料費削減技術の開発が求められている



以下の2点に着目し、飼料費を削減する

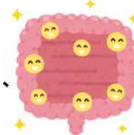
代償性発育

栄養成分を調整し、一時的に発育を遅らせた個体に対し、出荷前に高栄養の餌を給与し、体重を回復させる技術



酪酸産生菌

有機酸等を給与することで、豚の腸内における酪酸産生菌等が増殖し、腸の絨毛が充実し吸収率が上がる



研究内容

1年目・2年目

①代償性発育効果の検討

肥育後期豚に一時的に栄養成分を調整した安価な飼料を給与した後、高栄養の飼料を給与し、産肉・肉質成績および飼料費に及ぼす影響を調査する。

②飼料添加物給与効果の検討

離乳～肥育前期豚に酪酸産生菌等の増殖が期待される有機酸等を給与し、産肉・肉質成績および飼料費に及ぼす影響を調査する。

3年目

③代償性発育及び飼料添加物を利用した飼養管理技術の検討

試験1・2の組み合わせによる産肉・肉質成績および飼料費に及ぼす影響を調査する。

期待される効果

- 代償性発育を利用した飼料費の削減  
→養豚経営の安定化
- 豚の腸内における酪酸産生菌等の増殖  
→飼料効率・発育成績の向上
- 飼料費削減効果  
→総飼料費5%削減  
→県内での削減額  
年間約3,556万円

